

社会福祉法人緑ヶ丘学園 創立 **70** 年

就労継続支援B型事業所

サポート末広

開設 **10** 周年

認知症対応型グループホーム

稚内緑寿苑

開苑 **10** 周年

記念感謝祭



稚内はまなす学園



稚内緑風苑



サポート末広



稚内緑寿苑

平成 30 年 **10** 月 **20** 日 (土) 開式 11:00 ~

稚内はまなす学園体育館

社会福祉法人 緑ヶ丘学園

法人概要

1 名称

社会福祉法人 緑ヶ丘学園

2 所在地

〒098-6642 稚内市声問 5 丁目 44 番 11 号
TEL：0162-26-2632 FAX：0162-26-8146

3 代表者

理事長 波 間 喜代志

4 創 設

昭和 24 年 1 月 1 日

5 認 可

昭和 24 年 12 月 1 日（法人認可 昭和 25 年 9 月 18 日）

6 役 員

名誉理事長	石 塚 宗 博				
名誉理事 2 名	本 間 美 喜	岡 崎 義 徳			
理 事 8 名	波 間 喜代志	高 橋 清 一			
	貝 森 輝 幸	牧 野 みどり			
	中 陳 憲 一	米 田 正 博			
	荒 岡 愁 一	斉 藤 昌 司			
監 事 2 名	玉 澤 和 彦	早 坂 一 成			
評 議 員 9 名	伊戸川 成 史	石 塚 英 資			
	石 原 昭 子	梅 村 俊 範			
	坂 野 泰 雄	笹 川 笹 一			
	佐 藤 百合子	新 保 清 松			
	横 田 洋 子				

7 目的事業

- 第 1 種社会福祉事業
 - （1）障害者支援施設の経営
 - （2）特別養護老人ホームの経営
- 第 2 種社会福祉事業
 - （1）障害福祉サービス事業の経営
 - （2）相談支援事業の経営
 - （3）老人デイサービス事業の経営
 - （4）老人短期入所事業の経営
 - （5）認知症対応型老人共同生活援助事業の経営

記念感謝祭次第

■第1部（式典）

- 1 開式のことば 常務理事 高橋 清 一
- 2 物故者に黙祷
- 3 謝 辞 理 事 長 波 間 喜代志
- 4 贈呈セレモニー
○稚内市からの助成金
○緑ヶ丘学園園生を守る会からの寄附
- 5 感謝状贈呈
- 6 来賓祝辞 稚 内 市 長 工 藤 広 様
衆議院議員 武 部 新 様
北海道議会議員 吉 田 正 人 様
宗谷総合振興局長 朝 倉 浩 司 様
- 7 祝電披露
- 8 閉式のことば 常務理事 高橋 清 一

■第2部（祝賀会）

- 1 開会のことば 常務理事 高橋 清 一
- 2 祝 杯 稚内市社会福祉協議会会長 菅 原 耕 様
- 3 祝 宴 ・上映 「社会福祉法人緑ヶ丘学園の歩み」
・演奏 「職員によるハンドベル」
- 4 謝 辞 稚内はまなす学園施設長 齊 藤 昌 司
稚内緑風苑施設長 荒 岡 愁 一
- 5 万歳三唱 声問町内会会長 笹 川 笹 一 様
- 6 閉会のことば 常務理事 高橋 清 一

贈呈セレモニー

稚内市

「新アンリー号購入に係る稚内市からの助成」

平成7年9月に稚内市において開催された「第22回赤十字北海道大会」における記念事業として購入された「災害時人員輸送用車両（29人乗りマイクロバス）」を、災害時における緊急配備以外は、「障がい者の社会参加に役立ててもらおう」として、平成8年3月に、日本赤十字社北海道支部稚内市地区長（稚内市長）と社会福祉法人緑ヶ丘学園理事長の間で「覚書」が交わされ、以降、「アンリー号」として命名されたマイクロバスを当学園が運営管理し今日まで経過しています。

引き渡しを受け、利用者の日常活動等に使用し大切に管理し、今日まで22年の長期間にわたって活用されてきましたが、走行距離も27万kmを超える状況で経年劣化が著しく、使用時におけるリスク及び故障も多くなってきたことから、法人創立70年の節目に当たり、記念事業の一環として同レベルの車両の購入を決定しました。

この、現有車両「アンリー号」に替わる車両の購入費用の助成について稚内市へ要請の結果、当該額の助成を決定していただきました。

車 名	トヨタ コースターDX	29人乗り
排 気 量	4000CC	
購入価格	8,200,000円	（補助対象額 8,000,000円）
助 成 額	4,000,000円	（補助対象額の1/2）



22年間、27万キロメートルを走って活躍した「アンリー号」

社会福祉法人緑ヶ丘学園 園生を守る会

「園生を守る会解散による清算金を車輛購入費用として寄附」

社会福祉法人緑ヶ丘学園 園生を守る会は、昭和44年4月、障がいをもった子供たちの健やかな成長を願い、温かく見守っていただく多くの市民の方々の思いが結集されて「社会福祉法人緑ヶ丘学園 園児を守る会」として発足し、50年を迎えました。

発足当初より様々な角度から子供たちにふれあい、余暇活動や社会参加のために物心両面にわたる支援活動を進め、会員の弛まぬ努力のもとで活動の拡大を図ってまいりました。(昭和44年から平成29年までの間の助成総額は、2千6百万円を越えております。)

しかしながら、平成10年代後半以降、障がい児施設への入所者数が減少の一途を辿り、加えて、入所児の年齢が進むなどの理由から、平成27年8月には法人が運営する「障がい児入所施設 稚内緑ヶ丘学園(定員21名・入所9名)」が廃止となり、これに伴って、会の名称も「園児・園生を守る会」から「園生を守る会」へと改めております。

「障がいがあっても、自分らしく、そして明るく、社会の一員として精一杯頑張って生きて欲しい。」との本会会員の思いは、会員相互の努力と関係者のご協力により、この50年で大きな成果となって、所期の目的と役割を果たして来ることができたとの総括をおこない、会設立50年の節目にあたり、これまでの活動を大きな財産として本会活動の終了を決定しました。本会の解散にあたり、会員個々人が障がい者福祉のさらなる発展のために協力を惜しまないとの思いで、法人創立70年の節目に社会福祉法人緑ヶ丘学園が、入所障がい者の送迎用として購入する予定の車輛購入費用の一部に充ててもらうためこれを寄附されるものです。

清 算 額 1, 2 6 1, 3 9 8 円

創立 70 年記念感謝状贈呈者紹介

〈敬称略・順不同〉

【個人 (13 名)】

新 浜 秀 一	能代谷 重 雄	富 樫 正 光	杉 本 宏
畠 山 久美子	吉 田 敬 直	佐 藤 正 成	鈴 木 君 江
原 田 良 子	本 間 美 喜	小 玉 幸 江	牧 野 正 直
石 丸 力 夫			

【企業 (18 社)】

○株式会社 稚内薬局	○株式会社 (匿名) 1 社	○錦産業株式会社
○株式会社 恵菱設備	○株式会社 共成建設	○株式会社 三和重機稚内
○北海道コカコーラボトリング株式会社		
○株式会社 ヤクルト北北海道	○株式会社 武藤はくぜん	
○横田モータース株式会社	○美容室マリッチ	○らん美容室
○中央水産株式会社	○稚内東部株式会社	○稚内丸善株式会社
○有限会社 吉田商店	○兼丸水産株式会社	○朝波食品株式会社

【団体(28 団体)】

○声問町内会	○社会福祉法人緑ヶ丘学園 園生を守る会	
○北宗谷農業協同組合女性部沼川支部	○最北そば道場	
○稚内市南地区民生児童委員協議会	○稚内南ロータリークラブ	
○富岡町内会婦人部	○禅徳寺護持会いずみ会	
○稚内大谷高等学校生徒会	○稚内更生保護女性会	
○稚内漁業協同組合女性部	○ひかり町内会婦人部	
○学校法人 稚内ひかり学園 ひかり幼稚園		
○大黒 2 町内会婦人部	○はまなす町内会婦人部	○大岬婦人会
○宗谷漁業協同組合ホタテ地蒔増殖部会		
○石塚建設興業株式会社宗友会	○札幌学院大学文泉会宗谷支部	
○ロマンドール学園北海道西支部 ロマンドール牧口教室		
○稚内吹奏楽団	○稚内市立声問小学校	○北海道稚内養護学校
○稚内市立白樺保育所	○医療法人社団 凜誠会 クリニック森の風	
○医療法人 道北勤労者医療協会 宗谷医院		
○市立稚内病院	○井須歯科医院	

法人70年のあゆみ



北雲寮時代

昭和24年 道北盲ろうあ福祉協会設立、「稚内盲哑学院」「北雲寮」経営、児童福祉施設認可

昭和36年 施設名を「緑ヶ丘学園」に変更

昭和40年 法人名を「社会福祉法人緑ヶ丘学園」に変更

昭和41年 居室より出火、施設全焼

昭和43年 現在地（声問）に新園舎完成、移転
三笠宮妃殿下ご視察

昭和44年 盲児施設廃止、精神薄弱児施設新設

昭和45年 創立20周年記念式典挙行

昭和48年 緑ヶ丘学園体育館完成

昭和50年 創立25周年記念式典挙行

昭和57年 ろうあ児施設廃止、
稚内市より「稚内はまなす学園」の経営を受託

昭和60年 国道等に移動式花壇設置開始、
花壇設置に宗谷支庁長表彰

昭和62年 花壇設置で「タイムス善行賞」受賞

平成 元年 緑ヶ丘学園改築、新園舎完成

平成 2年 法人創立40周年記念式典挙行

平成 4年 「稚内はまなす学園」開園10周年

平成 5年 稚内市より「稚内はまなす学園」無償譲渡となる

平成 6年 児童施設名称変更「緑ヶ丘学園」から「稚内緑ヶ丘学園」に

平成 7年 常陸宮妃殿下ご視察

平成 8年 「稚内はまなす学園」通所部開設

平成 9年 「稚内はまなす学園」重度棟増設

平成10年 「地域生活支援センター」開設、法人創立50年式典等挙行

平成13年 「稚内はまなす学園」分場施設開設、体育館新築

平成17年 特別養護老人ホーム「稚内緑風苑」開設

平成18年 障害者グループホーム「りぶ・びれー」新体系移行
（共同生活援助・共同生活介護）

平成20年 稚内はまなす学園分場、名称「サポート末広」新体系移行
（多機能型=就労移行、就労継続B型）

認知症対応型グループホーム「稚内緑寿苑」開設

平成21年 「稚内はまなす学園」新体系移行（施設入所支援、生活介護）

平成22年 「稚内緑風苑」増床開設

平成23年 「稚内緑寿苑」増床開設

平成24年 「稚内はまなす学園」園舎改築

平成27年 障害児入所施設「稚内緑ヶ丘学園」事業廃止

「サポート末広」就労移行支援事業廃止し就労継続支援B型に変更



S44年 児童施設



S48年 児童施設体育館



H元年 児童施設新園舎



稚内はまなす学園



稚内緑風苑



稚内緑寿苑



ご挨拶

社会福祉法人緑ヶ丘学園

理事長 波 間 喜代志



緑ヶ丘学園は、本年創立70年を迎えるとともに、平成20年にスタートした障がい者の就労支援ための作業所である「サポート末広」と認知症高齢者のためのグループホーム「稚内緑寿苑」が共に10周年となりました。

【山下通りでのスタート】

振り返りますと、昭和21年、終戦の翌年という混乱と物資の乏しい中、障がいのある子供たちのために心を配る方々がおられました。当法人の初代理事長とされた、林仁三郎氏をはじめとする有志の方々であります。

大変な苦勞を重ねながら、昭和24年1月には、「道北盲聾哑福祉協会」を発足させて「稚内盲哑学院」を開設、同年12月には、市内の旧山下通り（現在の宝来地区）に木造60坪の「北雲寮」を開設して15名の子供たちを受け入れ、翌25年には「社団法人」としての認可を受けたのであります。

【クサナル地区への移転】

その後、増え続ける子供たちの受け入れに対処するべく、昭和26年には、クサナル地区（現在の緑地区）への移転を決め、木造平屋建555坪の第一寮舎を建設、翌年には、同じく105坪の第二寮舎を建設するとともに、「社団法人」から「社会福祉法人」へと組織変更の認可を受け、70名の子供たちを受け入れました。

その後も定員の増加変更などを経て、昭和36年には施設の名称を「北雲寮」から「緑ヶ丘学園」に変更し、昭和40年には、法人の名称も「社会福祉法人道北盲ろうあ福祉協会」から「社会福祉法人緑ヶ丘学園」へと変更いたしました。

しかしながら、昭和41年11月に寮舎の居室から出火して施設が全焼するという大変な事態となり、焼け跡に仮の寮舎を建てて仮り住まいを余儀なくされました。

【声問地区への移転】

こうした中で、役員や多くの関係者が奔走し、北海道や稚内市をはじめ、多方面からの手厚いご支援のもとで声問地区への移転計画が進められ、昭和43年4月には現在地において園舎を新築することができ、翌44年には「盲児施設」を廃止して、新たに「知的障がい児施設」を新設し、「ろうあ児施設」と併せての運営となりましたが、昭和57年3月には、この「ろうあ児施設」を廃止するとともに、成長していく子供たちを受け入れるために、同年4月より、稚内市が開設した「知的障がい者更生施設・稚内はまなす学園」の経営を受託することとなりました。

この「稚内はまなす学園」は、平成5年には市から譲渡され、以後は「障がい児と障がい者」の二つの施設の運営主体となりました。また、この年から「障がい者のためのグループホーム」の開設に着手し、現在では市内13箇所においてグループホームを運営しております。

【介護サービス事業の運営】

平成12年に入りますと、来るべき「高齢化社会」に対応するべく、「介護保険制度」が始まりましたが、法人におきまして、施設で生活する方々の高齢化の問題を抱え、これらに向けての対策が必要とされ、その一環として、平成17年10月に、「特別養護老人ホーム・ショートステイホーム・デイサービス・そして居宅介護サービス」の各種介護事業を運営するため「稚内緑風苑」を開苑いたしました。

これが法人における「介護サービス事業運営」のスタートとなりました。

【事業の拡大と縮小】

平成20年4月には、障がい者の就労移行・就労継続支援のため「多機能型事業所・サポート末広」を開設、さらには、認知症高齢者の共同住居として、「認知症対応型グループホーム・稚内緑寿苑」を開苑いたしました。この二つの施設が本年度、10周年となるのであります。

「サポート末広」については、平成28年3月に「就労移行支援事業を」廃止し、翌4月から「就労継続支援B型事業所」といたしました。

一方、「知的障がい児施設」の「稚内緑ヶ丘学園」においては、新たな入所児が平成17年以降はゼロとなり、将来的な見通しも期待できない状況で定員21名に対して9名の入所で運営し、赤字経営を余儀なくされたことから、平成27年8月をもって止む無く施設を廃止するという大変残念なこともありました。

【結び】

まだまだ一度には語りつくせぬほどの様々な変遷がありましたが、おかげをもちまして、70年を経た今日では、全体での利用者延780名、役職員210名余りの組織となりました。

ここに至るまでには、歴代役職員の労苦はもとより、行政をはじめ多くの方々に大変なご尽力をいただきました。あらためて、深甚なる敬意と感謝を申し上げますとともに、さらなるご指導、ご協力を切にお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

法人創設70年をお祝いして

稚内市長 工 藤 広



このたび、社会福祉法人緑ヶ丘学園が法人創立70周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。また、就労継続支援B型事業所サポート末広並びに認知症対応型グループホーム稚内緑寿苑が開設10周年を迎えられたこと、重ねてお祝い申し上げます。

貴法人は、昭和24年に前身である道北盲ろうあ福祉協会を設立し、その後昭和40年に法人名を「緑ヶ丘学園」に改名されました。以来、今日まで様々な移り変わりの社会情勢の中で、幾多の困難を克服し当市の地域や住民福祉の面で大きな貢献をいただいていることに対し、深く感謝をし、歴代の理事長をはじめ関係者のご苦勞に深く敬意を表します。

一言に70年と申しましても設立当初は、障がい福祉に対する市民の意識もまだまだ乏しく、事業を立ち上げることは並大抵のことではなかったと察せられます。その後、少子高齢化が急速に進展し、平成18年から介護保険制度の改正や障がい者福祉に関する法制度の改革が相次いで行われ高齢者や障がいのある人の福祉を取り巻く環境は急速に変化を遂げ、福祉に対するニーズもますます多様化しています。そのような中、社会情勢の変化に敏感に対応し、障がい者への支援施設や福祉サービス、特別養護老人ホーム、認知症対応型グループホームなどの運営を通じて市民の福祉の向上に貢献されてこられました。

本市といたしましても、市民や団体、企業の皆様との協議により高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が様々な社会的活動を通じ、自分らしく、誇りをもって、地域でともに支え合いながら安心して暮らすことができる環境をつくることは重要な施策であります。

時代は、住み慣れた地域で最後まで暮らしていただく地域包括ケアの推進、さらには障がい者・子育て支援を包含した「地域共生社会」の実現に向けて動いております。

今後も関係機関等との連携の中でさらなる発展のため、なお一層のご尽力をされることを切望いたしますとともに、貴法人のますますのご発展と皆様方のご健勝を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

法人創設 70 年によせて

稚内市議会議長 中 井 淳之助



このたびの法人創立 70 年並びに就労継続支援 B 型事業所サポート末広・認知症対応型グループホーム稚内緑寿苑開設 10 周年にあたり、稚内市議会を代表して、心からお祝い申し上げます。

貴法人は、昭和 24 年に、「すべての人たちの人間としての尊厳が守られ、豊かな人生を営むことができるよう多様で良質な福祉サービスを創意工夫し総合的に提供します」という経営基本理念のもと、盲ろうあ児施設設立の主意により、道北盲ろうあ福祉協会を設立したのが始まりであり、現在では市内で 9 箇所の施設等を経営しておられます。

障がいを抱えていたり、介護を必要とされる方々や、そのご家族にとって、慣れ親しんだ地域の中で暮らし続けるためには、安心して生活できる社会の形成がきわめて重要であり、こうした施設が地域にあることは大変心強く、大きな支えになっていると考えます。

利用者一人ひとりが、社会の一員として、快適で豊かな自立生活を送るため、日頃から様々な支援をされている職員の皆様はもちろんのこと、これまで先頭に立って経営を継続してこられた理事長をはじめ関係者の皆様に、深甚なる敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

本市では、「稚内市障がい者計画」を策定し、その基本理念として「全ての市民が障がいの有無に関わらず共に支え合い 住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくり」を掲げ、様々な施策に取り組んでおり、市議会といたしましても、障がいを抱える人々が、安心・安全に暮らすことができるまちづくりのため、地域共生社会づくりにも努めてまいります。

最後になりますが、この 70 年を契機として社会福祉法人緑ヶ丘学園がさらなる発展を遂げ、今後とも社会環境づくりに向け、より一層のお力添えを賜りますことをお願い申し上げますとともに、職員の皆様には益々ご健勝で、ご活躍されますことをお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

創立 70 年、誠におめでとうございます。

創設七十年を祝して

北海道宗谷総合振興局長 朝 倉 浩 司



社会福祉法人緑ヶ丘学園が創立70年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

貴法人は、昭和24年に盲ろうあ児施設として開設されて以来、昭和44年に知的障害児施設、昭和57年に知的障害者更生施設を開設されたほか、平成18年には共同生活援助事業所を開設するなど障がい福祉施設・事業所を拡大し運営され、宗谷管内における障害福祉サービスの礎を築き、その発展に大いにご尽力して来られました。

貴法人が開設された当時は、知的障害児の施設は少なく、そうした施設を支える制度や地域住民の理解も今日とは非常に異なっていたこともあり、施設の運営や処遇のうえで、数多くの困難があったことと存じます。

また、近年では、平成17年に特別養護老人ホームを開設されたほか、平成20年には認知症対応グループホームを設置・運営されるなど、高齢者福祉分野における福祉の充実・発展にも積極的に取り組んでおられます。

この間の理事長はじめ役職員の皆様、施設を利用される方々への処遇に真摯に向き合ってこられた施設職員の皆様、さらには施設の運営を暖かく支援してこられた地域住民の皆様など、数多くの関係の方々のご努力に深く敬意を表します。

誰もが住み慣れた地域において、安心して心豊かに暮らすことができる社会の実現は道民すべての願いです。

こうした中、貴法人は、施設の設置・運営のほか、高齢者や障がい者が地域で暮らすための在宅サービスも提供しており、こうした幅広い取組は、大変に意義深いものであります。

道においても、本年3月に「第7期北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画」や「第5期北海道障がい福祉計画」を策定し、高齢者福祉分野では、「みんなが支える明るく活力に満ちた高齢社会」、障がい者福祉分野では、「希望するすべての障がい者が安心して地域で暮らせる社会づくり」を目指した施策を進めており、当振興局におきましても、これら施策の推進とともに、地域の細やかなニーズに寄り添い支援して参りたいと考えているところです。

高齢者福祉や障がい者福祉を取り巻く環境は変化していきませんが、貴法人は、この70年間培ってこられた知識と経験を活かし、障がい者福祉と高齢者福祉の両分野において、ますますご活躍されることをご期待申し上げますとともに、地域に根差した社会福祉法人として一層発展されますことを心より祈念し、お祝いのことばといたします。

「サポート末広」10年のあゆみ

平成12年	8月	稚内市末広3丁目9番37号に 「ワークセンタースカラップ」新築する。(129.6 m ²)
平成13年	4月	稚内はまなす学園分場施設 「ワークセンタースカラップ」開設する。(定員6名)
平成14年	8月	ワークセンタースカラップ増築 (129.6 m ² →181.44 m ²)
	10月	稚内はまなす学園分場施設 定員6名から15名に変更する
平成19年	11月	ワークセンタースカラップ増改築工事着工する
平成20年	2月	ワークセンタースカラップ増改築工事完了する
	4月	稚内はまなす学園分場施設「ワークセンタースカラップ」が、 障害者自立支援法に基づき新体系に移行する。 障害福祉サービス多機能型事業所「サポート末広」認可となる 所在 稚内市末広3丁目7番10号 実施事業 就労移行支援 利用定員15名 就労継続支援B型 利用定員16名
平成21年	4月	就労継続支援B型 定員を16名から25名に変更する
平成22年	4月	就労移行支援 定員を15名から9名に変更する 就労継続支援B型事業所 定員を25名から31名に変更する
平成24年	4月	就労移行支援 定員を9名から6名に変更する 就労継続支援B型事業所 定員を31名から34名に変更する
平成27年	4月	就労移行支援事業廃止に伴い事業変更する 事業所名称 変更前 多機能型事業所サポート末広 変更後 就労継続支援B型事業所サポート末広 定員変更 変更前 34名 変更後 40名



サポート末広〔正面〕

サポート末広の作業の様子をピックアップ

〔スカラップ ホタテのミミ取り作業〕



〔チャレンジ 資源物分別整理（空きビン等）〕
分別整理から運搬等まで全て人力で頑張ってます！



空きビンの集積ヤード（人力で積み上げます。冬は雪で大変です!）



自転車解体

〔ウエス 資源物分別作業〕

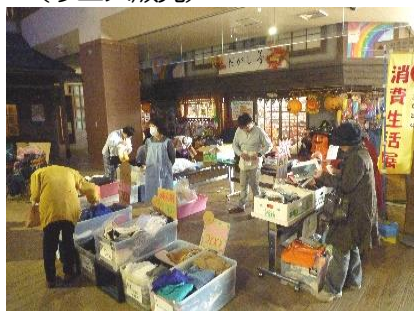


古着の分別



ウエスづくり

(ウエス販売)



〔こんな作業も行っています〕
(発泡スチロールの袋かけ)



(草刈り作業)



〔とても大切な避難訓練の様子〕
(消火訓練)



(避難訓練 ヘルメット着用)



「稚内緑寿苑」 10年のあゆみ

- 平成20年 2月 認知症対応型グループホーム稚内緑寿苑工事完了
所在 稚内市声問5丁目27番20号
- 平成20年 4月 認知症対応型グループホーム稚内緑寿苑認可される 利用定員9名
- 平成22年 3月 稚内市地域密着型サービス指定候補事業者に選定される
- 平成23年 2月 稚内緑寿苑 9名増床開設 定員9名から18名に変更する
- 平成23年 7月 北海道より生活保護法による介護機関として指定を受ける



【声問ホーム】



【あおいホーム】

ホームでの生活からピックアップ

母の日のお祝い・たくさんの花に囲まれて



お正月準備(蒔玉づくり)



昭和27年元旦 みんなすまして



クリスマス準備 ツリーの飾りつけ



クリスマスパーティー カラオケ



稚内養護学校の生徒さんとゲーム対決



稚内養護学校で来苑 はい! チーズ



そば打ち食事会がありました



とても美味しかったですよ



合同誕生会



民謡サークル松涛会の皆さんが来苑



エンジェルボイスが来苑
美しい歌声に感動



ひな祭りの一コマ



施設概要

【障がい部門】

1 障害者支援施設

稚内はまなす学園

所在 稚内市声問 5 丁目 47 番 2 号

定員 施設入所支援 49 名

生活介護 75 名

2 共同生活援助事業所

りぶ・びれー

所在 稚内市栄 1 丁目 43 番 5 号

定員 66 名

〔春風荘〕 5 名 〔松風荘〕 5 名

〔花風荘〕 5 名 〔夢風荘〕 5 名

〔清風荘〕 5 名 〔鈴風荘〕 5 名

〔ピコハイツ〕 6 名

〔青葉ハイツ〕 5 名

〔北風荘〕 5 名 〔そよ風荘〕 4 名

〔くさの実荘〕 7 名

〔ゆきみ荘〕 5 名

〔ハイツもりやま〕 4 名

3 就労継続支援 B 型事業所

サポート末広

所在 稚内市末広 3 丁目 7 番 10 号

定員 40 名

4 緑ヶ丘学園生活支援センター

みる・み〜る（相談支援事業所）

所在 稚内市末広 3 丁目 7 番 10 号

【介護部門】

1 特別養護老人ホーム

稚内緑風苑

所在 稚内市声問 5 丁目 44 番 11 号

定員 80 名

2 短期入所生活介護事業所

稚内緑風苑

所在 稚内市声問 5 丁目 44 番 11 号

定員 10 名

3 通所介護事業所

稚内緑風苑

所在 稚内市声問 5 丁目 44 番 11 号

定員 18 名

4 居宅介護支援事業所

稚内緑風苑

所在 稚内市声問 5 丁目 44 番 11 号

5 認知症対応型共同生活介護事業所

稚内緑寿苑

所在 稚内市声問 5 丁目 27 番 20 号

定員 18 名

経営基本理念

すべての人たちの人間としての尊厳が守られ、豊かな人生を営むことができるよう多様で良質な福祉サービスを創意工夫し、総合的に提供します。

経営指針

1 利用者に対する基本姿勢

- (1) 人権の尊重とサービスの質の向上
- (2) 地域との関係の継続と生活環境・利用環境の向上

2 社会に対する基本姿勢

- (3) 地域における公益的な取組の推進
- (4) 信頼と協力を得るための情報発信

3 福祉人材に対する基本姿勢

- (5) トータルな人材マネジメントの推進と人材確保に向けた取組の強化
- (6) 人材の定着に向けた取組の強化と人材の育成

4 マネジメントに対する基本姿勢

- (7) コンプライアンスの徹底と組織統治の確立
- (8) 健全な財務規律の確立と経営者としての役割の明確化

重点経営目標

- 1 組織統治の確立
- 2 人材の確保に向けた取組の推進
- 3 地域における公益的な取組の推進
- 4 信頼と協力を得るための情報発信
- 5 サービスの質の向上